

関東アコーディオン演奏交流会 実行委員会ニュース

No. 8

2013.2.19 発行

ニュース担当者

乙津・小神・仙仁

ホームページ <http://www.kanto-acco.jp>

今回で 10 回目となる伴奏講座を 2 月 2 日(土)～3 日(日)、1 泊 2 日で開催いたしました。

受講者は 20 人、講師を含め 22 人での伴奏講座でした。会場となった八王子にある「星槎高尾キャンパス」は初めての場所で、夏はとても暑く、冬はとても寒い所だと聞いていたので参加者には温かくして参加するようにお知らせしていましたが、幸い天候に恵まれ、寒さの心配はありませんでした。また、周囲が樹木に囲まれているこんもりとした丘を切り開いた場所で、静かな落ち着いた環境の中で受講することが出来ました。

大きなログハウスで全体会と青山教室の講義を、隣の建屋の一室で池田教室の講義が行なわれました。初めての参加者も多く、会場が自宅から 2 キロぐらいという方もいました。施設など色々な場所で歌の伴奏を経験されている方が何人もいて、是非続けて欲しいという参加者が多く、早々と次回が楽しみという声も上がっていました。



夕食後の交流会では、アルコールも入り自己紹介を兼ねてアコーディオンを始めた動機など話が弾み今回も歌声喫茶ふうになりまして。(写真下)



ログハウスの中で記念写真(講座終了後に撮影)

※一日目で帰られた方、2 日目の午前中で帰られた方もいて全員ではありません。

※講義の内容は 2 ページに一部を記載。 ※参加者の感想などは次号に掲載の予定です。

目次

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| ■伴奏講座を終えて……………1 | ■東北アコーディオンジャンボリー支援「ジュピター」ニュース…4 |
| ■伴奏講座(講義の様子)…2 | ■アコと人生(この人にインタビュー)……………5～8 |
| ■CD作成のお知らせ……………3 | ■ホワイトボード……………9～10 |

伴奏講座 の報告＜講義のようす＞

青山教室をのぞいてみると(講師 青山 義久氏)



♪青山教室では、今回はりーつ(へ長調)の音階に慣れるようにと
いうことで、用意された楽譜「手のひらを太陽に」、「上を向いて歩こ
う」、「花は咲く」は全てへ長調の楽譜を使っていました。

楽典の内容は、「りーつ」のへ長調は「ファ、ソ、ラ、シ、ド、
レ、ミ」という音階があって、その音階のそれぞれの音を「根音」とい
い、その根音の上に“三度”の音を重ねて行くとそれぞれの和音に
なっていく(二つの重なりは重音で、三つ以上の重なりを和音という)

それは、コードネームでは「F、Gm、Am、B♭、C、Dm、Em-5」そういう和
音が出る。そして、このコードは、あくまでもコードの名前であって、和音の機
能で考えると、コードの下にローマ数字で書かれた「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ」
の和音と読み替えて行く。「Ⅰ(主和音)とⅣ(下属和音)とⅤ(属和音)」「(主
要三和音)の関係。また、「ⅡとⅢとⅥ」(副三和音)の関係。この関係は何調
になっても長調である限りは全部同じ関係にあるので、このローマ数字で表す「
主和音」、「属和音」、「下属和音」という考え方も必要です。



へ長調の主要な六つの和音っていうのは、アコーディオンで考えればすぐ解りやすく、ベース側に手
を入れてベースボタンをイメージしてもらえば、へ長調ですから「Ⅰの(Fメジャー)」を押して、直ぐ下に
「Ⅳの(Bフラットメジャー)」がありますね。で、「F」の直ぐ上には「Ⅴの(Cメジャー)」がありますね。そし
て、その上には直ぐ隣り合わせて「Gm」、「Dm」、「Am」とありますね。このように主要な六つの和音は
隣接していることが解ると思います。

二日目は4～5人ずつ「手のひらを太陽に」、「上を向いて歩こう」、「花は咲く」の3曲に分かれてグ
ループで伴奏の実践をしました。(青山教室の一コマ)

池田教室をのぞいてみると(講師 池田 健氏)



♪池田教室では、5人の内二人新しい方が来られたので、いつも
やっている音階と調。♭が一つ、二つ、三つ付いたのと、♯が一
つ、二つ、三つ付いたのが、何故そうになっているのかということだど
か、コードを付ける際の主要になる六つのコード。その調とコードを
勉強しました。

そこから、伴奏する際に必要なことを色々と勉強しました。まず
は、「リズム」。口をすっぱくして、前回も言ったんだけど、伴奏で一番大事なことはリズム、安定したリズム。
そのリズムを提供することで歌いやすくなる。それで、リズムも一杯あって、同じ三拍子でも山程ありまして、本
当は聞き分けて経験することが大事なんで、四拍子は四拍子でもその違いを聞き分けることが大切。ちよっ
とだけ違うのをやってみると、普通三拍子だったら「ブン、チャッ、チャ」だけども、例えば①「イチ、ニイ、サ
ン」のように一拍目も二拍目も三拍目も同じようにしっかりと刻む場合もあるし、(次ページへ続く)

②「イチ、ニイ、サン」のように一拍目をしっかり刻んで、あとの二拍目、三拍目は軽く付いていく刻み方もあるし、③「イチ、ニイ、サン」のように一拍目、二拍目をしっかり刻んで三拍目を軽く刻む曲もあるし、④「イチ、ニイ、サン」のように一拍目だけでなく、三拍目も強くて、三拍目から一拍目に向かうようなリズムの作り方もある。同じ三拍子でもどのリズムで歌うのかを提供してあげないと、例えばロシア民謡を②のリズムで弾くとシャンソンっぽくなってしまう。例を挙げればそういうことです。

それから、伴奏する場合「和音の転回」ということも大事なことです。ハ長調の「ド(C)」の上に「C」の三和音を書いていくと「ド、ミ、ソ」⇒「ミ、ソ、ド」⇒「ソ、ド、ミ」ってなります。これを転回と言います。「C」って言われたら、和音の構成からいえば「ド、ミ、ソ」も「ミ、ソ、ド」も「ソ、ド、ミ」もみんな「C」なんだっていうことが解らないといけない。

またリズムに戻りますけど、例えば四拍子を八つに、だから八分音符で「イチ、ニイ、サン、シイ、ゴウ、ロク、シチ、ハチ」のように、一番目と四番目と七番目にアクセントを付けるリズムもある。(池田教室の一コマ)

2日目は、各自それぞれ曲を選び、自分でコードとリズムを付ける実践をしました。



CD作成のお知らせ

2012年9月23日(日)北区滝野川会館で開催された「第24回関東アコーディオン演奏交流会」(重奏、小アンサンブル、合奏の部)について、アンケートに書かれた要望の他に後日、ビデオならびにCDについての問合せがありましたので、当日録音されたデータをもとにCD化することになりました。

《お勧め(CD化)の理由》・・・演奏者の音がどのように客席に届いていたか

録音は、マニュアル録音により比較的よい状態で記録できていると思います。演奏者の皆さまが最も気を配った楽器の音色や音量、バランス、タッチの具合、クレッシェンドやピアノニッシモなどの演奏表現がどのように客席に届いていたかを確かめる上でもとても良い研究材料になると思います。初めての取り組み(録音は記録が目的なので以降毎回CD化することではありません)ですのでこの機会に是非皆さまにお勧めです。当日参加できなかった方もどうぞお聞き下さい。

＝希望される方は下記までお申し込みください＝

(個人の他、同じサークルや教室などは、グループ単位でまとめていただけると助かります)

■ CD、3枚組み(右の写真とラベルは実物と異なります)

■ 価格 送料込みで1,000円

■ 申し込み先

塚本五郎 〒216-0033 川崎市宮前区宮崎 660

電話 044-877-9871

E-mail tsuka@mrg.biglobe.ne.jp

■ 現物先渡し CD送付時、振込先の記載された書類を同封いたします。



「ジュピター」練習模様

1月20日(日)午後1時、小金井市立第二中学校第2会議室にアコーディオンを背負った人たちが15人集まった。

今年4回目の開催となる「東北アコーディオンジャンボリー in 仙台」において、東日本大震災で被災された人達を励ますために東北のアコ仲間と一緒に応援演奏するための練習に参加する人達だ。

演奏する曲目はイギリスの作曲家グスターヴ・ホルストが作曲した組曲「惑星」から「ジュピター(木星)」だ。

「惑星」は7つの楽章から成り、それぞれに火星、金星、水星等、惑星の名前が付けられているが、全曲中最も有名なのが第四曲「ジュピター」の第二部だろう。その壮大で美しいメロディは世界中の多くの人々に愛され、数多くの音楽家・アーティスト達により様々な歌詞やアレンジが加えられている。

日本でも2004年に平原綾香がこのメロディに日本語の歌詞をのせて歌ってCDデビューを果たし一躍有名になった。

この曲の演奏指導および指揮をしてくださるのは関東アコーディオン演奏交流会実行委員の池田健さん、編曲は同じく実行委員の橋本千香子さんだ。原曲は8分を超える大曲だが、橋本さんはアコーディオンを8つのパートに分け、第二部の美しいメロディを含めて5分ぐらいの曲として編曲してくれている。

橋本さんの編曲の特徴は第一部と第二部の間に尺八のソロ演奏を入れたことだろう。

2012年12月12日発行の関東アコーディオン演奏交流会実行委員会ニュースNo7の中で橋本千香子さんが紹介されているが、尺八演奏は福島県郡山市の佐藤正助さんという方で、虚無僧の「山越え」という曲を演奏して下さるとのこと、

池田さんの話では鎮魂の響きとか心に染み入る旋律が非常に印象的だったとのこと、尺八とアコーディオンとのコラボが今から楽しみだ。

「ジュピター」は、全曲を通して演奏するのが非常に難しい曲だ。第二部の有名なメロディを除いてテンポが非常に速いのと、随所にシンコペーションで演奏する部分があつて拍が移動するため非常にリズムが取りにくい。小生のようにアコを始めて年月が浅く技術的にも未熟な者には至難の曲のように思われるが、あの有名なメロディをみんなで演奏する喜びを考えると何としても頑張っ練習しようという気になって来る。

池田さんのエネルギッシュでしかも分かりやすい指導のもと、3時間半みんなで楽しくみっちり練習し、「結構さまになって来たね」と池田さんにおだてられる。池田さんはみんなをおだててやる気を出させるのが上手い人だ。

5月の本番まであと4回練習を積みば、東北のアコ仲間と一緒に、「東北アコーディオンジャンボリー」を聴きにきてくださる皆さんにきっと良い演奏を届けることが出来るだろう。

そのことを期待してこれからも頑張ろうと思う！

(記：東谷 彰)

《今後の練習予定》

◇ 2月24日(日)13:00～17:00

場所 小平市立障害者福祉センター

電話 042-343-4976

西武国分寺線、西武多摩湖線「小川」駅10分

◇ 3月24日(日)13:00～17:00

場所 小平元気村おがわ東

電話 042-345-1165

西武多摩湖線、西武拝島線「萩山」駅南口5分

◇ 4月28日(日)13:00～予定(場所未定)

(問) 池田健 ken4425@ka2.so-net.ne.jp

アコと人生…この人にインタビュー《第14回》 「岡田栄子さん」

今回は、東京労音アコーディオン研究会（通称アコ研）所属の「岡田栄子」さんを紹介いたします。正月明けの1月8日（火）池袋駅で待ち合わせ、近くの落ち着いた喫茶店でアコーディオンとの出会いや新年の抱負を伺いました。

明けましておめでとうございます。

○早速ですが生まれ育った所からお伺いします。

岡田 1951年、（昭和26年）現在の国立国際医療センター（旧、陸軍第一病院）で生まれました。新宿区河田町に住んでいて二人姉妹の長女でおてんば娘でした。妹もアコ研のメンバーです。

戦後6年経っていましたが、家のそば（フジテレビ通り下と呼んでいました）で道路に傷痍軍人が座ってお辞儀をしていて、当時は1銭とか2銭っていうお金だったと思いますけど缶カラに入れている父の姿を覚えています。父はラバウルとか戦地へ行った軍人でしたから。

スタディツアーでカンボジアへ行ったときもそうでしたね、地雷の被害者だっている人達が手風琴のようなものを弾いていました。

○スタディツアーって？

岡田 観光旅行ではなくて、例えばカンボジアだったらポルポトの歴史を学習しながらその場所を回ったり、私は保育士なので保育士養成所の生徒と一緒に学習したりとか。そういう学習旅行みたいなものをスタディツアーっていいです。

私の友達がカンボジアのNPOに携わっていて私もずっとそのNPOを支援していたんです。お金を出すだけで一度も行くことがなかったので、4、5年前に訪ねてみました。

山ちゃんとの出会い…来年の夢はネパールへ。

“山ちゃん”っていうのは私が都下の福祉園で保育士をしていたときの同僚で彼は指導員でした。ギター一本でフォークソングを歌う方なので、彼がギター、私がアコ、ムーミンがボーカル、この三人で「ガラクターズ」というグループをつくって笠木透さんのフィールドフォーク「私の子どもたちへ」「私に人生といえるものがあるなら」そんな歌をうたっていた時期があったんです。もう35、6年前になるの

かなあ。その山ちゃんに最近また誘われるようになり、去年の夏には、千葉にある養護施設の夏祭りに誘われて久しぶりに会って弾いて来ました。



▲ 写真はその時のスナップ。上の後列一番左が山ちゃん、後列右から二人目（立奏）が本人。下は子ども達に近寄る岡田さん。

山ちゃんは病気を抱えているのにとっても行動的で、来年、ネパールで1万人規模の集会を開く企画に彼が参加するという話を聞いて、私も一緒についていって山ちゃんの歌の伴奏をするという壮大な夢が出来ました。音楽が彼を後押ししているんですね。私のつたないアコーディオンでも来て来てって誘ってくれるんです。

○話を戻しますけれど、新宿で生まれて、小学校、中学校での思い出は。

岡田 私がアコーディオンに出会ったのは小学校なんです。ピアノは少し習っていましたが大っ嫌

いで全然練習しなくて、手の甲を“ペン”って叩かれるんですね。「また栄子ちゃん練習してこないでしょうって」、学校から帰るとランドセルを放り投げて男の子と木登りしたり“ピンポンダッシュ”したり（笑）そういう子どもだったのに、今思えば母は戦時中だったからやりたいことが出来なかったの、嫌いでも続けさせてくれたんですね。感謝しなくてはと思います。

小学校は、余丁町小学校といって区立でしたけれどコンクールに出ている音楽部があって5年生になるとピアノを弾ける子は集められて、6年生と一緒に練習していました。そこで5年生の時にアコーディオンを弾いたのがアコとの出会いでした。

バスアコは銀色に光ったの、アルトアコは青く光ったの、ソプラノアコは赤く光っていて、音楽室に縦に並んでいた記憶があります。

もう半世紀も昔です。ウッドベースは岡島君が弾いていた、チェロは北川君が弾いていた、名前まで覚えている、懐かしいです。合奏する面白さとか自分のパートの大事さとかそういうことは小学生ながら経験しました。

○小学校で其処までやっていたのは驚きですね。中学に入ると部活に吹奏楽が入ってきますけど。

岡田 中学はバレーボール部と剣道部でした。

想い出は親友との出会いです。彼女は小児麻痺のため2年遅れて入学したので私より年が二つ上でした。家が近くだったのでいつも「てるこさん」と一緒に通って、おしゃべりすることが楽しくてしょうがない中学生時代でした。50年の付き合いになりますけど、彼女の生き方は、私にとって障害児の保育に向かわせるきっかけになりました。

もう一つの想い出は、音楽とちょっと離れたかなと思っていたら、中3の頃ギターの上手い小倉君という男の子がいて、じゃあフォークソングを歌おうって4人でよく文化祭のステージ上で歌いました。その時は小倉君のギター一本で、少年合唱団に入っていて歌が上手な鈴木さんがヴォーカルでバックコーラスのように「銀色の道」だったら、遠い～遠い～遙かな道は～“ボンボボン”って言うのが私でした（笑）でも楽しかったですね。

岡田 高校での唯一の想い出は、バスケット部です。周りは中学からやっている子たちだからレギュラーにはなれなかったけれどバスケットだけは

やり通しました。（背が伸びるどころか太くなつたと笑う）卒業する時にコーチが言ってくれた言葉「永野（岡田さんの旧姓）、メンバーチェンジで替える時いつもお前が居てくれて助かった」が一つの支えになりました。私はメンバーチェンジ要員だったんですけども、指導者がそういう言葉で自信を付けさせてくれたっていうか、自分のやっていたことに報われたっていうか、その言葉は今でも覚えています。

音楽に関しては、保育専門学校の入試にピアノでバイエル60番か70番以上という試験科目があって、しばらく弾いていなかったの、もう一度受験用のレッスンを受けに通いました。その先生が私に合っていて、ピアノをちょっと味わえたかなっていう感じでした。

岡田 保育士養成学校は、あの当時は美濃部都政でしたので「ポストの数ほど保育所を」というスローガンのもとに何校も設立されて（現在は全廃）、私は「立川高等保母学院」に入学しました。

在学中、第1回全国車椅子バスケットボール大会が駒沢体育館で開催された時、ブラカードガールのお手伝いをしたご縁で「東京スポーツ愛好クラブ（今年45周年）のマネージャーをすることになりました。車椅子で颯爽とプレーする叔父さんたち（私達学生はまだ二十歳ぐらいでしたからそう呼んでいました。“笑”）は格好良かったです。おじいさんになられた今でも私のコンサートに来てくだいいます。そんな出会いから就職は肢体不自由児施設と決めました。

岡田 学校には音楽部があり、私はソプラノアコを担当していました。合唱もやったり、バスケット部にも入っていたのでこの時代が最高に楽しかったです。

選曲も「恋は水色」とか由紀さおりの曲だとかポピュラーな曲を先生が編曲され私達のレベルにパート分けして、コンクールに出るとか高望みもしないでとにかく楽しましようという指導でした。

○就職は希望がなかったんですか。

岡田 希望通り肢体不自由児の施設に採用されました。体力的にはかなりきつかったけど、保育士として若いなりにも自分たちのやりたい保育を実践できたと思っています。毎日のプログラムがあって

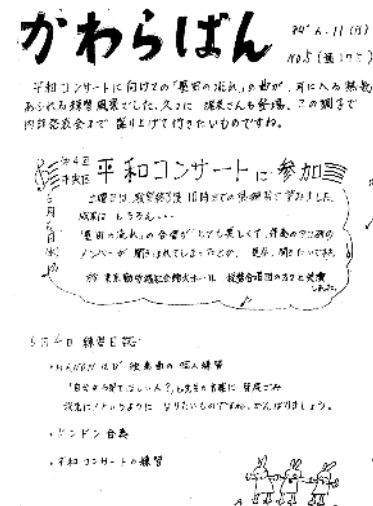
幼稚園のような流れを作ってその中でアコーディオンを弾くチャンスがありました。子どもの歌を弾いたり、キャンプファイヤーを囲んで弾いたり仕事の中で活かしました。

○アコ研との出会いはいつの頃ですか。

岡田 就職とほぼ同時でした。ドン（誘ってくれた友達）は新宿の保育園に勤めて、その先輩保育士でアコ研に入っている方の勧めで入り「栄ちゃんアコーディオン弾いていたでしょ（私は、保母学の音楽部でソプラノアコを担当していました）、私こういうのに入ったから入りなよ、栄ちゃんだったら中級からでいいよ」って誘ってくれたんです。ですから40年前ですね。その時の私の先生は、現在群馬アコーディオンセンター渋川サークル代表者の上ノ原さんでした。そんなご縁なんです。

40年とはいっても、28歳のとき父の看病のため休会し、30で結婚してから出産、北海道へ転勤したりでずっと休会が続きました。休会していても休会費を払うと「かわら版」が届くんです。もう千何百号になります。こういう練習をしています、いつ発表会がありますとか、仲間の活動の紹介だとかが分かるので、東京に来る機会があると練習会場に顔を出して聴いていましたし、発表会には賛助出演させてもらい、いつも温かく迎えてくれるし必ず私の

パートを用意してくれているので、甘えて20年以上休会者でした。休会者から復帰し毎週練習に行くようになったのは、浜名先生がお辞めになるのと前後してだった



たのでここ数年です。 ▲ 初期の頃の「かわら版」1984年・175号を見ると、「HANON 及び独奏曲を見て欲しい人」との先生の言葉に、皆尻ごみ」の文字も。11月号には忘年旅行の記事が載っていたり、また、順番を決めて毎回歌伴奏をしているなどアコ

研の様子がよくわかります。(最新号は通算1300号を越えました)

○“私とこの曲”、特別な曲ってありますか。

岡田 直ぐにあげるとすれば、去年、7月のさよならコンサートで弾いた「ジプシーダンス」(パーマー・ヒューズ曲集)です。

アコ研は合奏中心ですが、毎年内部発表会で独奏を1曲弾く課題があります。独奏の苦手な私は避けたいのが本心でしたが、2010年のコンサートで「ジプシーダンス」を志津江さんが独奏されました。一目惚れして挑戦したのですが、見事に大失敗！

でも、私が練習している時に、志津江さんは「岡田さんに合っている曲よ、音もきれいだから頑張ってるね」と励まして下さったのです。お手本にしていたその志津江さんは一昨年の12月、高齢者施設のクリスマス会で演奏をされていた時、アコーディオンを抱えたまま亡くなされました。

お別れの時「必ずリベンジします！」と誓いました。(想いがこみ上げて目頭を押さえる)それから7月のコンサートまでどんなに忙しくても毎日必ず弾くことを実行しました。やっと自分の曲にめぐりあえた思いです。「ジプシーダンス」は大切にしていきたいですし、まだまだ完成度が低いのでしっかり練習し続けていきます。

【昨年、7月の「さよならコンサート」に向けて6月に合宿した時のスナップ(右側が本人)】▼



岡田 もう一つ私の支えは、常任指揮者だった浜名政昭先生が何年か前にアコ研に下さったお手紙の中の言葉です。「技術的に高くなろうという意欲は分かりますが、そう一気に上手になれるものではありません、気長にコツコツと続けることです」とか「ソロで感じるのは、もう少し易しい曲を選んで完全に仕上げるのが大切では。簡単な曲、イコールつまらない曲ではないですから」などの言葉です。

また、「とにかく皆さん難しい曲とか他人に聴かせようとする曲を選んだりする傾向がある。でも、どんなに易しい曲でも聴いてもらえる人の心に響く弾き方でなきゃだめだよ」っていうことだとか、「上手く弾こうとか間違わずに弾かなくちゃって思っくんじゃなくて、曲に気持ちを乗せなさい」そういうお手紙を下さったんですね。やっぱりそれが弾いていく上ですごく支えでした。

浜名先生の編曲っていうのは、音楽を通して人の気持ち、心が動いていく所が多いなあと感じています。代表的なのが「I LOVE YOU」です。尾崎豊の「I LOVE YOU」も素敵ですけどもアコ研の「I LOVE YOU」が出来たって、自信を持ってどこでも弾ける曲だと思っています。

○他にアコーディオンを続けていて良かったと思ったことはありますか。

岡田 小児病院での体験などがそうです。私は“入って入って”って先生に言われてアコを抱えてICUの中に入ってジングルベルを弾いたのが忘れられません。

4年ぐらい前、廃院を控えて最後のクリスマス会でした。管を付けて寝ている子供達のところで、先生がサンタになりプレゼントを持って回るんです。その後ろでジングルベルジングルベルってピアノリッモでも音がちゃんと聞えるように、あの時はエキセルシャの400だったのでこの年になるとちょっと重たいんですけど、その時に“その状況に寄り添って弾くということ”は、ああ、こういうことなのかあってすごく貴重な体験をしました。

子どもの反応は、ICUなので直球では返ってきませんが、大概、変な音がすれば泣くとか緊張するとかって表情に出すんです。けれども、それがなかったなので私は感動でした。貴重な体験をさせていただいて幸せだなあと 생각합니다。

○来年ネパールへ行く話をされていましたが、今年の抱負とか夢があれば聞かせてください

岡田 抱負といえば、目標は、まず62歳で他界した母の年齢を越すことです。(笑)

アコーディオンに関しては、2月の内部発表会で歌伴1曲と、来年ネパールへ行く山ちゃんが作った曲をちょっと披露しようかなと思っています。もちろん「ジブシーダンス」の完成度も上げていきたい

です。

また、仕事(保育)の中でアコーディオンを活躍させたいです。昨年のようにアコを持って小児病棟を回りジングルベルとか赤鼻のトナカイとか決まった曲だけ弾かせていただき、子ども達がさわりに来て“ブー”とか“バー”とか一杯鳴らして出す笑顔は最高です。子どもたち、お母さんたちとの楽しいひと時を演出したいと思います。

岡田 関東アコって25年ですか、私、北海道へ行ったりしている時期だったので、アコから離れていましたけれど、やっぱり自分たちだけのサークルではなくて関東で、勿論、関西にもあるんでしょうけど、こうやって続けている、顔は知らない、名前も知らない、でもアコを弾いて楽しんでいる人達がこんなにいたんだって、年に1、2回会うだけでもすごくそれが支えですよ。

○そのように感じていただけると嬉しいです。

岡田 あるとき、関東アコの交流会で保母学時代の友達に会ったんです。“音楽って奇跡を生むよね、会わせてくれたね”って。アコって、人と人とを結びつける、つながるんだなと体感しています。

これは余談ですけど、私達夫婦はアコ研同士です。結婚式をしていないんですが、アコ研の仲間が実行委員会を立ち上げて「祝う会」を催してくれたのです。母の病気の時、父の病気の時も入院の時も、仕事の仲間、アコの仲間がずっと支えてくれていたな

って思います。

本当にいろんな人が演奏会に聴きにに来てくれましたね。想い出すとアコと保育士という仕事が全て私を良い方向へ良い方向へと導いてくれているのでこれは感謝ですね。



▲アコ研の忘年旅行、一番左が本人(昨年12月、日光にて) (おわり)

■新年の楽しいインタビューとなりました、貴重なお話を有難うございました。 《文責：乙津》

ホワイトボード (連絡はがきその他より)

♪谷口サンデートーク『アコーディオンを語る集い』♪ *谷口楽器のホームページより*

第127回 2013年3月3日(日) 13:00~14:30 講師: 望月真也氏「もっちゃんのアコーディオン人生(17)」
第128回 2013年3月24日(日) 13:00~14:30 講師: 牧田ゆき氏「アルゼンチン・チャマメ音楽とタンゴについて」
会場 谷口楽器4階アコーディオン売り場 ◆住所 千代田区神田駿河台1-8 タニグチビル4階
問合せ 要予約 TEL03-3291-2711 Fax 03-3291-5188 ★各回定員20名(入場無料)

<http://www.taniguchi-gakki.jp/sunday.html>

♪ジャンゴとグラッペリへ捧ぐ ジプシー・スウィング・ランデブー♪ *マヌーシュ・スウィング*

日時 2013年3月3日(日)17:00開演 16:30開場 ★ゲスト 中山千尋(ジャズ・ピアニスト)

会場 めぐるパーシモンホール(大ホール) ★東急東横線「都立大学」駅より徒歩7分

出演者 ストークロ・ローゼンバーク・トリオ(現在のマヌーシュ・スウィング界最高峰

ギタリスト、ストークロ・ローゼンバークを中心としたトリオ。滑らかで切れ

味鋭い早弾きギターが魅力 / ティム・クリップハウス(ヴァイオリニスト)

チケット 全席指定 前売り¥6,000 / 当日券¥6,500

CDセット割引¥7,000(プランクトンのみ取扱い)

問合せ プランクトン 03-3498-2881 <http://plankton.co.jp> / めぐるパーシモンホール 03-5701-2904



♪御喜美江 アコーディオン・ワークス♪ *『あの日を境に変わった私』、魂を込めて演奏する！*

日時 2013年3月9日(土)14:00開演 13:30開場

会場 浜離宮朝日ホール ★地下鉄日比谷線「築地」駅より徒歩5分

曲目 <<世界初演>> 細川俊夫「3台のアコーディオンのための新作(仮題/新曲委嘱)」/ディエゴ・ラモス「ハー
プとアコーディオンのための新作(仮題/新曲委嘱) <<御喜美江の『今』>> J.S.バッハ「幻想曲とフーガ
ト短調 BWV.542」(御喜美江編曲)/「2台のチェンバロのための協奏曲 第2番ハ短調 BWV.1061」(御
喜美江編曲)/林光『裸の島』の主題によるパラフレーズ(野田雅巳編曲) <<知られざるロシアの名曲
「日本初演」>> アレキサンダー・チェルプニン「インベンション チガーネ」

出演者 アコーディオン(御喜美江 太田智美 ハイティールオスィェルヴィ) ハープ(吉野直子)

チケット 全席指定 4,500円 ■朝日ホール・チケットセンター03-3267-9990/クリスタル・アーツ 03-5210-9071

♪Piano in TAKAMATSU♪ *未来へ、風の詩にのせて~アコーディオン&クラリネット&ピアノ~*

会場 サンポートホール高松 第一小ホール ★香川県高松市サンポート2-1

PART-1 2013年3月23日(土)16:00開演(15:30開場) <<オープニングソロコンサート>>

【第一部】 御喜美江 ソロコンサート

D.スカルラッティ:ソナタハ長調 K.159, ソナタ二短調 K.1/他

【第二部】 アコーディオン・ワークショップ

アコーディオンを身近で体験しよう! 御喜美江と太田智美、両アコーディオン奏者によ
る、アコーディオンの歴史、構成、体験、そしてアコーディオン解体も!?

PART-2 3月23日(土)18:00開演(17:30開場)/富田珠里(ピアノ)×石川幸司(クラリネット)デュオコンサート

PART-3 3月24日(日)13:00開演(12:30開場) ファイナルコンサート デュオからカルテットまで

【第一部】アコーディオンデュオ+ピアノプラス委嘱作品 【第二部】~夢の競演~ファイナルステージ

問合せ 高松ピアノプラス企画実行委員会:090-3460-1575 <http://shuritomita.net/tpp2013.html>



ホワイトボード（連絡はがきその他より）

♪スプリングコンサート♪ ＊音楽センター南部教室修了演奏発表会＊



日時 2013年3月24日(日)14:00 開演(16:00 終演予定) ★入場無料

会場 川崎市総合自治会館 ホール

交通 JR 南武線、東急東横線、目黒線「武蔵小杉」駅より徒歩7分(中原警察署の先向かい側)

友情出演 鶴見アコーディオンクラブ

特別ゲスト 山田千賀子(ソプラノ独唱)

予定曲 (合奏) 見上げてごらん夜の星を／すみれの花咲く頃 (重奏) 小さな喫茶店／オー・ソレ・ミオ
(独奏) カンカ／ジユトヴ／アンダルシア／出船／港が見える丘／ハイケンスのセレナーデ／他
(講師演奏) 稲葉由理子／森 陽介 (みんなで歌おう) 浜千鳥／心つなごう

問合せ 音楽センター 教育部・新宿区大久保 2-16-36 Tel03-3208-8377 ◆生徒募集中

♪木星音楽団 第1回演奏会♪ ＊≪尺八、箏、ケーナ、アルパ、歌による4人の管弦楽≫＊

日時 2013年3月31日(日) ◇1回目 15:00 開演(17:00 終演) ◇2回目 18:30 開演(20:30 終演)

会場 近江楽堂(東京オペラシティ3階/定員120名) ★京王新線「初台」駅下車すぐ。

出演者 八木倫明(ケーナとナイ) 池山由香(アルパと歌) 小野美穂子(箏) 三塚幸彦(尺八)

予定曲 クアルテット:ジュピター(G.ホルスト)／コンドルは飛んで行く(やざりん作詞)／オリーブの首飾り(C.モルガン)／少年時代(井上陽水)／他 テュエット:シェリト lind(メキシコ民謡/やざりん訳詞)／他

チケット 全自由席 前売り券¥3,000(学生¥2,000) / 当日券¥3,500(学生¥2,500)

問合せ 03-5988-9316 プラネット・ワイ(平日:9:00~18:00/土曜:9:00~13:00)

FAX 03-5988-9319 E-mail yagirin88@gmail.com

♪三浦みゆき・三浦弥生イングリッシュ・コンサーティーナ教室♪

場所 (株)モリダイラ楽器 モリダイラストudio B 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-7-4

◆【三浦みゆき】コンサーティーナ / アコーディオン教室

レッスン日 毎月第2、第4土曜日と第2、第4木曜日

時間 午前10時から午後4時までのいずれか1時間ごと(レッスン時間45分)

費用 45分コース¥4,000/1単位 60分コース¥5,000/1単位(応相談)

レッスン方法 個人レッスンが基本ですが、初期にはグルーブレッスンの場合もあります。

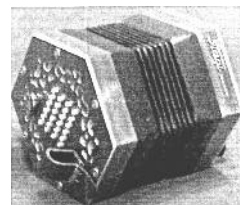
◆【三浦弥生】コンサーティーナ教室

レッスン日 毎月第2、第4土曜日

時間 午前10時から午後4時までのいずれか1時間ごと(レッスン時間45分)

費用 45分コース¥4,000/1単位 60分コース¥5,000/1単位(応相談)

レッスン方法 個人レッスンが基本ですが、初期にはグルーブレッスンの場合もあります。



問合せ 電話 03-3862-5041 FAX 03-3864-0659 Eメール accordion@moridaira.com

担当 平井 ※応募満了の場合はご希望に添えない場合もあります。

2013年2月実行委員会のお知らせ

日時 2013年2月24日(日)18:00~ 議題:会場取りについて/その他

会場:小平市立障害者福祉センター ★西武多摩湖線、西武国分寺線「小川」駅より徒歩10分